

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】(ユニット1階)

事業所番号	2772401259		
法人名	社会医療法人 美杉会		
事業所名	グループホーム 美杉		
所在地	大阪府枚方市西招提町2166番地		
自己評価作成日	令和2年1月15日	評価結果市町村受理日	令和2年3月16日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://www.osakafusyakyō.or.jp/hyouka/hyoukaG/kohyo/index.htm>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター		
所在地	大阪市中央区常盤町2-1-8 FGビル大阪 4階		
訪問調査日	令和2年2月26日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

病院が母体という事で、医療が近くにある施設として、家族様にも頼りに、また安心して利用して頂いています。職員は日々、入居者の個々の思い、願いに寄り添ったケアの実施に努め、生活を楽しく安心して過ごして頂ける様に、雰囲気作りにも努めています。また、その人らしい生活を過ごして頂ける様に、本人・家族の方と共に話し合いながらQOLの維持、向上にも努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所(ホーム)は、社会医療法人美杉会グループが運営するグループホームの一つで、3階建ての建物に、デイサービスセンターと介護老人保健施設(老健)を併設し、相互に機能補完している。また、隣接地にある法人の大型病院と医療連携し、利用者や家族の安心と信頼が強い。開設19年経つホームでは、2ユニット18人の利用者一人ひとりが、職員の目の行き届いたケアの中で、ゆったりと落ち着いた生活を送っている。比較的広いリビングには、七段のひな人形が飾られ、利用者と職員の共同作品等も壁等に上品に飾られており、適度な室温、湿度や採光等と相まって快適な環境が維持されている。長期利用者の中には、介護度が高くなって寝たきりに近い人もおり、家族の意向があれば、重度化や看取りなども支援しており、適切に対応するために職員が研鑽に努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/>	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/>	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	日常的な話し合いを行うと共に部署会議やケースカンファレンス(認知症に関わる検討会議)の時等に理念を元に話し合っています。また名札の裏に理念カードを入れ、常に確認出来る様にしています。	法人と事業所(ホーム)理念を玄関入り口の掲示し、職員は理念カードを携帯している。職員は理念をかみ砕いて理解し、日常のケアに当たっている。また、満足度向上委員会でホーム独自の標語「良いケアは心と身のゆとりから」を考案し、日常のケアに活かされ、標語の見直しも適宜行っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	グループホームの立地が住宅街の端にあるので、地域の一員として日常的な交流を図る事は難しいが、年に数回小学校で行われる地域行事に参加したり、近所のスーパーや飲食店に行く等、交流の機会に努めています。	併設のデイサービスセンターや介護老人保健施設(老健)と合同、及び系列の3グループホーム合同で、地域と交流している。区民体育祭、小学校での「殿二祭り」、敬老会、、花見、夏祭り、クリスマス会などへの参加、各種ボランティアの受入れ、小学校への訪問、中学校の吹奏学部の来所等で、地域と交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	二カ月一回、運営推進会議を開催しています。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二カ月に一回開催しています。会議での御意見をサービスの質の向上に繋げる様に心掛けています。	年6回(偶数月の第2水曜日)会議を開催しており、8月には系列の3グループホーム合同で開催している。会議には、地域包括支援センター職員、民生委員(複数)、利用者及び家族、看護師、ホーム管理者等が出席している。会議では、ホームからパワーポイント等による報告をした後、出席者による質疑、評価、情報交換を行っている。	年2回の家族会において、議事録の要旨を報告しているが、今後は会議開催の都度、議事録を家族に郵送することを望む。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	必要に応じて連絡を取る様にしています。	運営推進会議に地域包括支援センター職員の出席が毎回あるほか、必要に応じて直接市役所の福祉関係課への申請、報告、相談等を行っている。3グループホームの管理者や地域のホームとの連絡会等があり、行政とは直接、間接に連携を取っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定期準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	入居者様の安全を確保しつつ、一人一人の自由な生活を支援出来る様に努めています。また会議の場でも適宜話し合っています。	法人で身体拘束廃止に関する指針を作成しており、併設のデイサービスセンター、老健との3者合同で定期的に研修、勉強会を開催している。最近、窓から利用者の離脱があり、窓の開閉範囲を限定する金具の取り付け、居室の扉に鈴の取り付け、玄関の施錠等の事例はあるが、ユニット間はエレベーターで往来が可能で、閉塞感がないようにしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	部署会議や勉強会で意識の向上に努め、入居者様の御家族様からも意見を聞き、状況の変化に注意を払っています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	適宜関係機関と相談しながら支援に努めています。現在後見人を立てられている方はおられません。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約を結ぶ際に、御家族様との話し合いを十分持つ様にしています。不安な事柄や疑問点について理解を得られる様に説明を行っています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	御家族様が来所された際には、必ず声を掛け職員と馴染の関係を築ける様に努めています。年に2回家族会を開催しています。また、玄関には御意見箱を設置しています。	家族の訪問時に利用者の様子を伝える際に、意見や要望を聞くほか、運営推進会議に出席する利用者や家族からも意見等を聞いている。また、年2回(6・12月)の家族会において、意見を出してもらった独自の工夫をして、日常のケアに反映させている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃より職員と話し合う場を持つ様になっています。また職員が意見を出しやすい雰囲気作りにも努めています。	日常のケア時やケア会議、フロア会議において、管理者が職員から直接意見、提案等を聞く機会が多い。リーダー経由の意見具申もあり、LINEを活用して公式、非公式の連絡もある。提案等は可能な限り日常のケアに反映するよう努めており、職員間のコミュニケーションは良好なことが窺える。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	日頃より職員と話す機会を設け、職員一人一人が向上心を持って働ける様に職場の環境整備に努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職場での勉強会を定期的実施しています。法人内研修は職員の段階に応じて実施しています。また外部研修の受講についても支援しています。実践者研修や喀痰吸引研修、受講済みの職員がいます。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域包括支援センターの指導の下、地域内三つのグループホームが集まり、月一回の会議を初めとして情報交換を行っています。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前には、必ず見学に来て頂き、御本人、御家族様から要望や不安な事等を確認する様にしています。入居時には更に詳しい情報が得られる様に書面にて確認しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居されるまでにいつでも御本人や御家族様が来所や電話出来る様にしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居する際に必ず御本人、御家族様と面談を行い、必要とされる支援を確認し、計画作成担当者を含めた職員で話し合い、支援内容を検討しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に家事をしたり、散歩に出掛ける事で、入居者様に教わる事が多々あります。レクリエーションで楽しい時間を共有する事でお互いの思いを感じる事が出来る様に努めています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	来所時や電話連絡した際には、最近の状況を報告したり、嬉しい事柄は共に喜び、問題が発生した時には、原因を解決する為に相談出来る様努めています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	御家族の情報、協力を得ながら支援出来る様に努めていきたいと思っています。職員の会話の中に馴染みの人や場所の話題を出す様にしています。また併設施設の利用者様との関係も継続しています。	利用者の知人等馴染みの人の訪問は、入居期間が長くなるにつれて少なくなる傾向があるが、利用者との何気ない会話、家族からの情報、童謡や回想の中から、馴染みの人や場所を思い出せるケアを行っている。併設のデイサービスセンターや老健の人と新しい馴染みの関係ができることもある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日常生活の中で行動や発言を見守り、入居者同士の橋渡しの役割が出来るように職員間で情報交換を行なっています。入居者同士が心穏やかに関わりが持てるように支援しています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	グループホームから連絡をとる事はしていませんが、会う機会があった場合は、必ず声を掛けて、状況を確認するようにしています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人一人の思いを聞く機会を持つようにして入居者が何を望んでいるか把握するように努めています。	入居申込時に、利用者や家族、居宅ケアマネジャー、施設関係者からの情報を入手してフェイスシートを作成し、入居決定時には管理者が自宅を訪問し、本人や家族の思いを再確認し、介護計画に反映している。利用者の認知度が高くて希望や意向の把握が困難な場合には、目や口等の表情から可能な限り判断するように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	御本人や御家族様から生活歴や馴染みの暮らし等について話を聞く機会があれば、記録に残して職員間で周知出来る様に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一緒に話をしたり、作業する中で様々な方面から入居者を見るように努めています。その内容を記録に残し職員間で話し合うようにしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎日のケアの中で入居者の状態や気付きの記録を残すことに努め、月一回の認知症ケア会議では御家族様の意見を含めた職員間の話し合いを実施しています。	入居後は、職員が利用者に寄り添い、新たな気付きがあれば記録に残して職員で共有している。モニタリングやカンファレンスにおいては、家族、職員や医療関係者等の意見を取り入れ、職員で話し合っている。モニタリングは基本3ヶ月毎に行い、介護計画書は介護認定1年後または必要があれば随時見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者一人一人の介護計画を把握して、それに基づき記録が出来る様に努めています。記録内容を根拠にして、適宜介護計画の見直しを行なっています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われず、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者一人一人の要望を聞き出せるように努め、状況に合わせた様々な支援が出来る様にしています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のお祭り、小学校の地域行事に参加させて頂いています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	一カ月に2回往診があります。往診時に職員より看護師や医師に報告・相談しています。また、往診日以外でも体調に変化があれば連絡しています。医師からの指示は、必ず御家族に伝え、御家族様からの要望があれば医師と話し合える機会を設けます。	法人の病院(協力医療機関)が隣接し、随時相談と支援が可能で、利用者、家族にとって安心である。月2回の内科医の往診時に職員から利用者の状況を報告し、相談にも応じてもらっている。要望があれば家族が同席し、医師と話ができるよう心がけている。定期的に歯科医と口腔ケアの往診があり、併設の老健の看護師も巡回している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師1名配置し、常に連絡がとれる体制を確保しています。必要に応じて家族への連絡も行なっています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	協力医療機関へ入院した際には、こまめに入居者の状況を確認し、御家族とも連絡、相談が出来る様にしています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	御家族とこまめに話し合う機会を設けるとともに医師、看護師、御家族様と連携が図れる様に方針を職員全員で共有しています。	利用者の重度化時には、医師と家族が十分話し合い、家族の同意が得られれば、同意書に署名のうえで看取りの準備に入っている。利用者の症状がさらに進んだ場合には、直近の同意書を作成し、家族の同意を取り直して、話し合いの記録を残している。職員が一丸となって看取りに対する意識を高め、利用者と家族を支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	勉強会に参加し、定期的に訓練を行なっています。また、24時間看護師と連絡が取れる体制になっています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	職員の意識啓発に努めています。併設の老人保健施設と合同の訓練が有り全ての職員が順番に参加出来る様に配慮しています。災害発生時に備えて、飲料水等を準備しています。	併設の施設と合同で、特に出火場所の特定を重点にして消防訓練を行い、職員は順番に訓練に参加できるようにしている。非常階段の安全を確保し、災害発生時のための飲料水、オムツ等を備蓄している。非常時には地域住民との連携も不可欠となるので、地域に開かれたホームとなることを日頃から目指している。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者の誇りやプライバシーを大切にしながら関わりが持てる様に職員の意識を高める事に努めています。また、勉強会や部署会議等で話し合いを行なっています。	利用者のプライバシーを尊重しながら、一方では、利用者の安全を守る必要があるため、職員間で十分話し合っており、家族の了解を得ながら、介護の内容を決めている。認知症ケア会議では、プライバシーの尊重に配慮するだけでなく、管理者、リーダーと一般職員がそれぞれの役割を自覚しながら、相互に意識を高めようとしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者の言葉に耳を傾け、望んでいる事に気付ける様に努めています。また、入居者の思いを尊重出来る様に支援しています。(衣類の決定やレクリエーションの参加等)		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	御本人や御家族から今までの暮らしぶりを確認し、どのように生活を望んでいるのか、職員間で話し合い、支援を行なっています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	御本人の希望を確認し、御家族とも相談しながら行なっています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	コップにお茶を入れる人、下膳をしてくれる人、洗い物をする人、新聞を取りに行く人等、個々に合わせて役割を持って頂いています。	食事時の利用者への職員の声かけや目配りは、きめ細かで適切である。食事介助の際にも、個々に応じた工夫をして、おいしく味わってもらえるよう努めている。食事は併設の老健で調理しており、利用者個々の症状に合わせた刻み食、極刻み食等きめ細かな対応がとられている。近くの寿司屋、フードコート等へも出掛け、特に種類豊富なデザートは利用者から喜ばれている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	好みに配慮しながら、栄養バランスも考慮して支援を行なっています。食事の摂取量が極端に減少した場合には、職員間で話し合い、医師、御家族に報告し、個々に合わせた支援を行なっています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、一人一人に合わせた口腔ケアを行い、口腔内の清潔保持に努めています。また、必要に応じて家族様に歯科往診を依頼しています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々に合わせた排泄の援助を行い、一人一人の排泄リズムを知る事で排泄の自立に向けた支援に取り組んでいます。	こまめな排泄の記録を基に、利用者の排泄リズムを把握し、個々人のトイレへ行きたいというサインも見逃さず、できるだけ排泄の自立を目指している。排泄時の見守りも、プライバシーの確保と安全の兼ね合いに配慮し、しかも排便時の利用者の習慣をなるべく活かした介助をするよう努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便確認や食事量、水分量の把握を徹底しています。状況に応じて水分摂取を促したり、朝食時のヨーグルト摂取を働きかけています。また、散歩等の適度な運動も支援しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人の希望を尊重しながら、頻度や時間を考慮しています。ただADLの低下で二人介助の必要な方は、曜日や時間が限られてしまう場合があります。	併設の老健の機械浴槽も使い、週3回入浴を行っている。入浴を嫌がる利用者にも、タイミングをずらしたり、声かけの職員を替えるなど、こまめに対応している。湯に入れば気持ち良く楽しんでもらえるので、誘導はさりげなく、熱心に行っている。浴室入り口に、各利用者の状況と介助の注意事項を掲示し、持ち回りの入浴担当係が利用者全員の安全な入浴を支援できるようにしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中はリビングや居室で自由に過ごして頂いています。夜間眠れなくて起きている方には、見守りを行ったり、傾聴により気持ちが和らぐ様に努めています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	往診や受診の際に医師より説明を受け、御家族にも報告を行なっています。不明な点や症状に変化があれば、医師や看護師に相談しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の生活歴や趣味等は記録に残し、部署会議やケアカンファレンスの中で話し合いを行ない、出来る事から実現していける様に支援しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人一人に合わせた外出が企画出来る様に御家族と話し合いを行ない、支援していきたいと思っています。	日常の散歩以外に、デイサービスセンターの送迎車を活用して遠出をすることもあり、参加者が多い時には2往復している。近くの小学校の文化祭、体育祭等に招かれて出かけている。中庭で、桜の大木の花見や外気浴をしている。どの利用者にも、その人に応じた外出を可能な限り実現したいと思い、家族と話し合っって了解を得ながら、企画して支援に努めている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物の際に支払いをして頂く事があります。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の希望があれば掛けられる様に支援しています。御家族の意見を聞きながら援助しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロア内に季節毎に壁画を作り、季節の変化を楽しめる様にしています。また、トイレの場所はわかりやすく掲示しています。	共用空間は、ゆったりと広く開放感がある。窓が広く、天気が良ければ日差しが注いで明るい。利用者各々に、好みの座り位置があり、そこに座ってくつろいでいる。壁面飾りは、各月の担当職員が工夫を凝らして季節感を出して飾っている。建物空間が広いので、居室にも十分目が届くよう、夜勤で詰める場合等には居場所を工夫しながら目配りしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングで自由に過ごせる様にしています。日々の生活の中で座る席も何となく決まっており、気の合った入居者さん同士で楽しそうに会話している姿も見られます。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時あるいは、適宜、御本人や御家族の意向を確認し、使い慣れた机や椅子、趣味に関する物を持って来て頂き、使用されています。	利用者は、馴染みの品物や仏壇等を居室に持ち込んでくつろいでいる。各居室には、大ぶりの衣装ダンスが備えられており、衣類等はすっきり整理されている。週1回のシーツ交換時には清掃も行っている。知人や家族の訪問時には、居室での懇談のほか、リビングのソファ等でくつろぎ、他の利用者も交えて楽しく過ごすこともある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下、居室に段差が無く、フロア入口も出入りしやすくなっています。廊下やトイレ、浴室に手摺が設置されているので、安全に移動出来る様に配慮しています。居室内に洗面台が設置されていて、起床時の整容等も居室で見守りの下、行って頂いています。		